

平成26年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

- 1 日時 平成26年7月22日(火) 午後1時30分～
- 2 場所 考古博物館(風土記の丘研修センター)
- 3 出席者 (敬称略)
 - (委員) 堀内邦満、椎名慎太郎、谷口一夫、齊藤洋子、飯野奈津子、
今福政江、杉野美幸、篠原春子、望月立弥、宮川一男 10名
 - (事務局) 萩原館長、渡邊副館長、出月次長、村石学芸課長、総務課員2名
 - (教育庁) 中澤文化振興監、田中学術文化財課長、学術文化財課職員1名
- 4 会議次第
 - (1)開会
 - (2)会長あいさつ
 - (3)議事
 - (4)その他
 - (5)閉会
- 5 会議に付した事案の件名
 - (1)平成25年度考古博物館事業実績について
 - (2)平成26年度考古博物館経過・予定事業について
 - (3)考古博物館利用状況について
 - (4)その他
- 6 議事の概要

平成25年度事業実績、平成26年度経過・予定事業に関する質疑等

(委員)

博物館は人と物と施設が一体となって機能すると考えている。人の面では、今年度専門家の館長が就任し、たいへん嬉しく思っている。今年度臨時休館して防火区画の工事を行う、これは必要な工事と考えるが、既に開館後32年が経過し、向こう10年くらいの長期的見地で施設そのものの改修・改装を考える時期に来ている。特別展を開催するために常設展を縮小する現状は異常事態であり、これを解消し、魅力的な施設にする必要がある。

(事務局)

指摘のとおり考古博物館は開館30年余りが経過し、ハード面で大変古くなっている。10年くらいの展望の中でという提案があったが、いろいろな機能を考える中で、利用者の利便性が向上し、博物館の目的が達成できるよう、将来計画を作って参りたい。

(委員)

子供にもわかりやすい展示を望む。大人向けの展示解説の下に子供用のわかりやすいものを記載するなど工夫してはいかかが。

またイベントや企画展に波がある。次につながるリピートの一手が欲しい。入口で入館者に

対し「次にはこんな企画展がありますよ」という資料を添えるなどの工夫が欲しい。また、チャレンジ博物館で何回か参加した参加者にポイントを押し、貯めれば粗品がもらえるなどの取り組みは有効ではないか。

また、学校に対してもっとプレゼンを行ったらどうか。本物に触れるという素晴らしい体験ができる。歴史に興味をわく入口でもあり、実際に体験ができることをもっとコンパクトにアピールすべき。

(委員)

自身が高齢になったことがあり、駐車場からの道に凸凹があり歩きづらいつと感じる。車いすや乳母車の方が来館するにあたってはアプローチの舗装が悪く不便である。もしも今後施設のリニューアルなどの機会があるならば、危険のないよう玄関まで車を横付けできるような施設を望む。

(事務局)

施設面については長期的なテーマではあるが、身近な問題点についてもご意見を賜り、今後の計画に活かして参りたい。

(委員)

やはり路線バスの誘致が肝要。素晴らしい企画展をいくら開催しても、公共交通機関の便が悪ければ限界がある。このテーマは過去に何度も議論され採算性などの問題で実現困難ということは理解しているが、常に声を上げ続けることが大事。協議会としてもしっかりと声を上げていく必要がある。

また、考古博物館の周囲には国史跡である銚子塚古墳をはじめとした古墳群があり、多くの人が訪れているが、これも立派な博物館と言えるのではないか。この公園利用者も博物館利用者として人数にカウントしてもよいと思うが。

(事務局)

バスの課題は認識している。県立博物館でも同様の問題があり、過去県立4館を巡回する巡回バスも主張したがかなわなかった経緯がある。引き続き問題意識をもっていきたい。

また、国史跡である古墳を楽しんでいる方が多いことも事実。その数字は把握していないが、古墳は考古博物館の大きな特徴であり、今後更に活用を図って参りたい。今年は第一歩として、秋に古墳のシンポジウムを企画した。博物館の中だけでなく、周辺も一体となって運営して参りたい。

(委員)

広報の面で各公民館をもっと活用し、地域住民に広く周知をしたらいいかがか。

(事務局)

協力をいただけるとありがたい。活用を検討させていただく。

(委員)

子供たちも高校を卒業すると山梨を出て行ってしまふ。その前に郷土のよいところをしっかりと学び、送り出したいと考えている。その意味で、講座やシンポジウムの機会が多いことはありがたい。

(委員)

工夫してたくさんイベントを行っていたことを知り、感動している。いかに考古を一般の人に知ってもらうかが課題と考えるが、タイトルにもう少し工夫が必要では。また、現在、花子とアンが人気であるが、製作担当者と勉強会を行ったところ、その裏話が非常におもしろかった。考古学の分野でも、そんな裏話が聞けたらおもしろい。

(委員)

小中高の無料化は非常に素晴らしいこと。減免申請一つをとっても教育現場からは不慣れなものであるため、そういった障害が減り、間違いなく利用増につながるもの。

先ほどバスの話があったが、スクールバスがある学校では学習進度に合わせ柔軟に来館することができるが、それ以外の小規模校は遠足などの機会を得て来館することが多くなる。教育現場としては、考古博物館でバスを保有し、各学校へ迎えにきてくれたりする仕組みができるとうれしい。

また、ミュージアムショップに魅力的な「おみやげ」が乏しいと感じる。ショップの充実も魅力の一つとなるのでは。

(事務局)

PRが不足していることは認識している。先生方にもお力添えいただきたい。また、現在古墳がブームであり、それをうまく活用していきたい。体験イベント等も多く企画しているが、もう少し事業の見直しも行っていきたい。

(委員)

考古博物館の事業は小学校の授業に組み込むことはできるものの、専門性が高いため現場の先生がなかなか教えることができない。考古博物館へ来れば指導をいただき実施することができるが、先ほどの話のとおり、交通手段がないためなかなか来られない。出前授業を増やしていただければありがたい。

(事務局)

考古博物館にも交流教員があり、学校現場と緻密に打合せを行っているところ。また併設の埋蔵文化財センターにて出前支援を行っている。埋蔵文化財センターも含め学校の先生方へのフォローについて引き続き行って参りたい。

(委員)

例えば子どもたちが畑から出てきた土器を持って学校へ持って行く、それで終わらせるのではなく、先生が「考古博物館へ持って行って聞いてごらん」などと導いてくれることが大事。子どもたちの世界を大事にし、学校をはじめ地域の皆さんの協力によりそれを更に広げる取り組みが大切と感じている。

その他質疑等

(委員)

スポークスマンが話しかけてくれるなど展示解説を充実して欲しい。またイベントも含めて、学芸員が見方や魅力を解説してくれるようなものを定期的で開催したらいかがか。イベント自体は素晴らしいのだが、それを開催するだけで終わりとなっており、学びにつながっていない感がある。

また、先ほどミュージアムショップについての意見があったが、現在、考古博物館協力会で

様々な声を吸い上げているところ。よろしくお願ひしたい。

(事務局)

イベントの多さは事務局も認識している。今後イベントを整理し、その分解説を充実させるなど、ポイントを押さえた開催として参りたい。

ミュージアムショップについては非常に大切。魅力あるものになるよう、より一層充実に努めて参りたい。

- 以 上 -